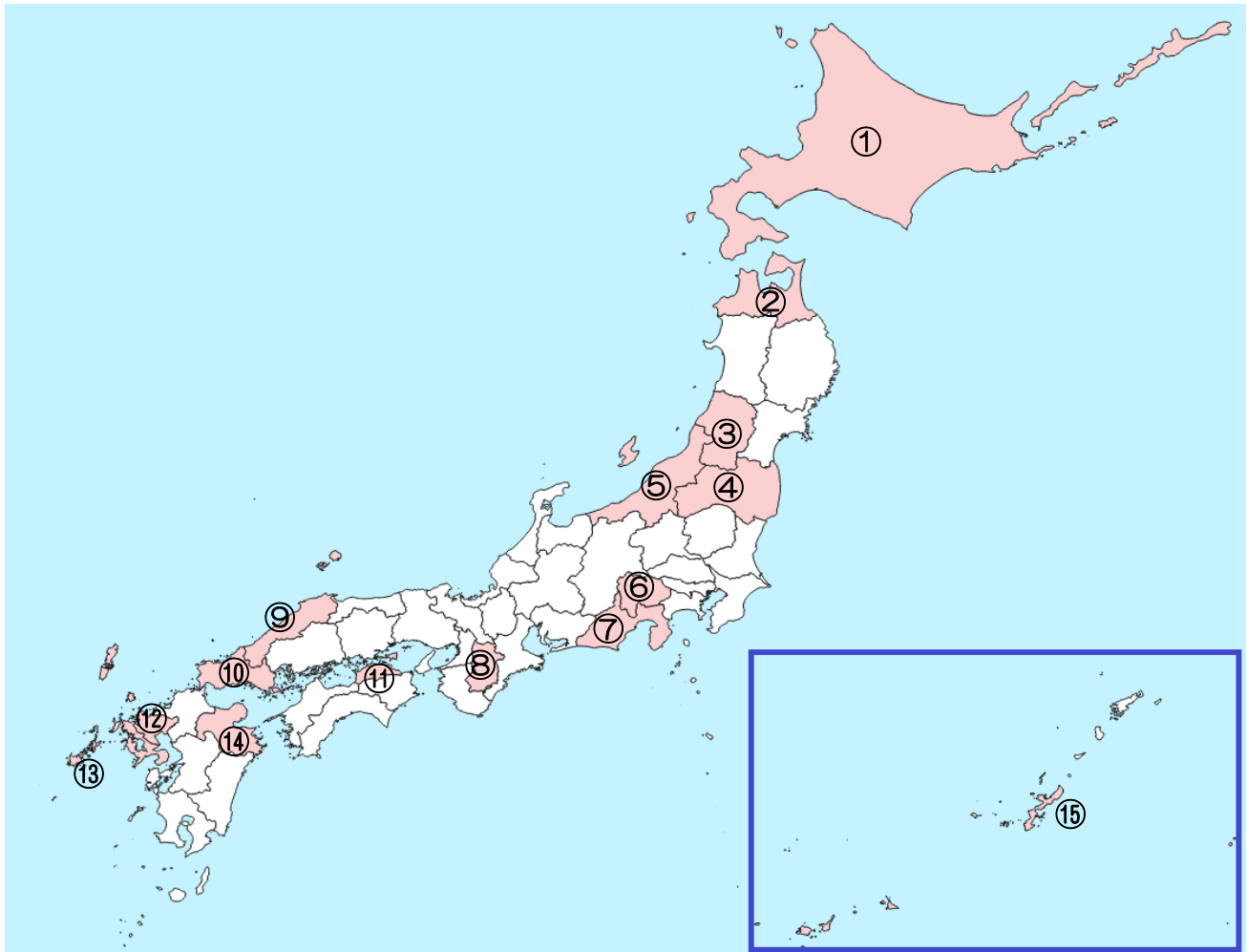


平成 28 年度 森林・山村多面的機能発揮対策交付金

活動事例集

第 1 部 活動事例紹介

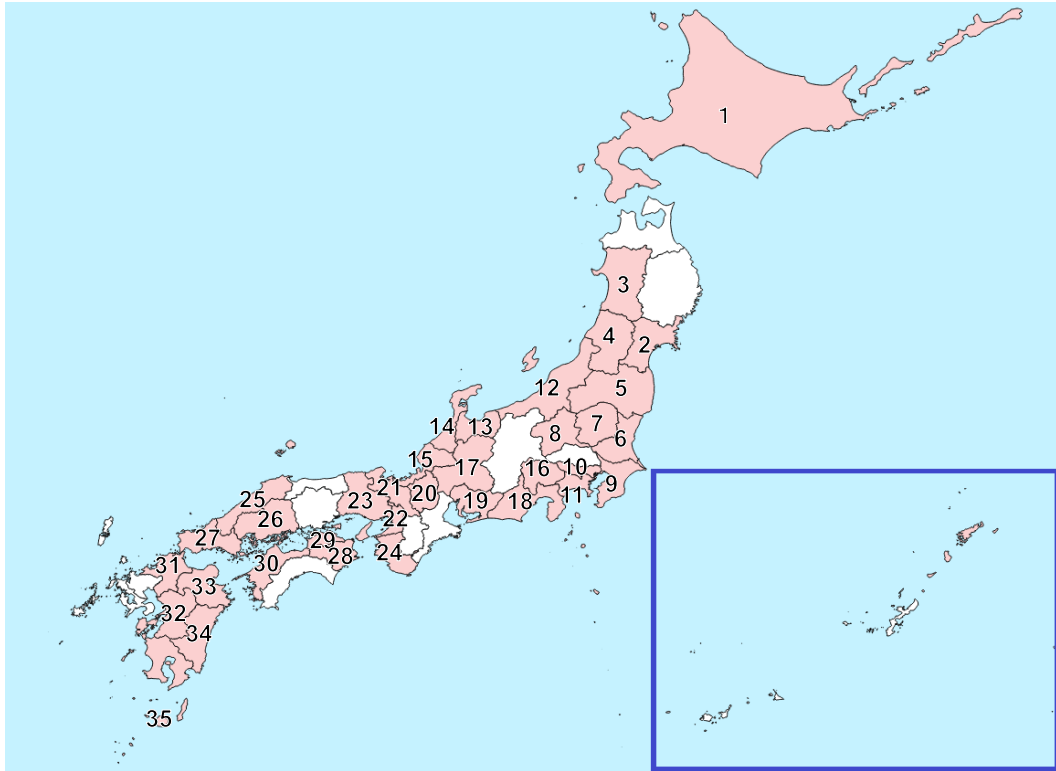
番号	所在地		団体名	頁数
	都道府県	市区町村		
1	北海道	七飯町	大沼流山森づくりネットワーク	5
2	青森県	青森市	白神山地を守る会	7
3	山形県	白鷹町	しらたか森づくりの会	9
4	福島県	西郷村	白河高原薪の会	11
5	新潟県	阿賀町	お山の森の木の学校	13
6	山梨県	北杜市	NPO 法人 自然とオオムラサキに親しむ会	15
7	静岡県	掛川市	時ノ寿の森クラブ	17
8	奈良県	奈良市	NPO 法人森づくり奈良クラブ	19
9	島根県	津和野町	高田里山を守る会	21
10	山口県	下関市	ふくの森の会	23
11	香川県	東かがわ市	東かがわ市北山森林ボランティア会	25
12	佐賀県	神崎市	特定非営利活動法人森をつくろう活動組織	27
13	長崎県	五島市	玉之浦椿の森保全会	29
14	大分県	大分市	NPO 法人 いきいき安心おおいた	31
15	沖縄県	国頭村	首里城古事の森育成協議会	33



第1部 活動事例掲載団体の所在する都道府県

番号	都道府県	団体名	番号	都道府県	団体名
①	北海道	大沼流山森づくりネットワーク	⑨	島根県	高田里山を守る会
②	青森県	白神山地を守る会	⑩	山口県	ふくの森の会
③	山形県	しらたか森づくりの会	⑪	香川県	東かがわ市北山森林ボランティア会
④	福島県	白河高原薪の会	⑫	佐賀県	森をつくろう活動組織
⑤	新潟県	お山の森の木の学校	⑬	長崎県	玉之浦椿の森保全会
⑥	山梨県	自然とオオムラサキに親しむ会	⑭	大分県	いきいき安心おおいた
⑦	静岡県	時ノ寿の森クラブ	⑮	沖縄県	首里城古事の森育成協議会
⑧	奈良県	NPO 法人森づくり奈良クラブ			

第2部 全国「自慢できること」紹介

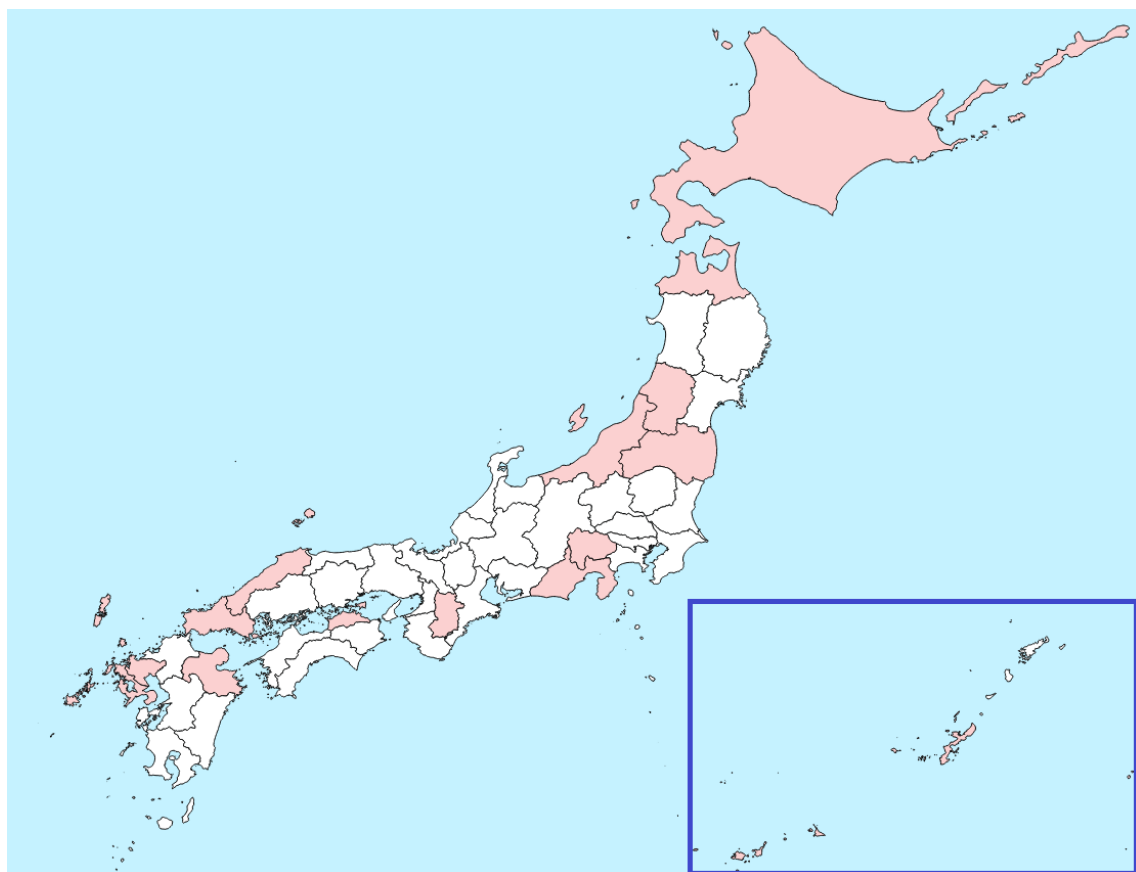


第2部 全国「自慢できること」紹介

番号	都道府県	団体名	頁数	番号	都道府県	団体名	頁数
1	北海道	札幌森友会	36	19	愛知県	鳳来峡の森を明るくする会	40
2	宮城県	若草山みどりの会	36	20	滋賀県	やす緑のひろば	40
3	秋田県	白神里山クラブ	36	21	京都府	特定非営利活動法人 加茂女	41
4	山形県	やまがた整森の会	36	22	大阪府	NPO クワガタ探検隊	41
5	福島県	やまもり会@霊山	37	23	兵庫県	NPO 法人野生生物を調査研究する会	41
6	茨城県	ふれあい筑波	37	24	和歌山県	熊野森林学習推進協会	41
7	栃木県	西宮町自治会	37	25	島根県	竹取のかぐや	42
8	群馬県	ぐんま山森自然楽校	37	26	広島県	野登呂山森保全の会	42
9	千葉県	おとすれ山の会	38	27	山口県	住みよい長穂をつくる協議会	42
10	東京都	NPO 法人フジの森	38	28	徳島県	西井川林業クラブ	42
11	神奈川県	沼間四丁目上の谷戸森林管理協議会	38	29	香川県	羽床里山クラブ	43
12	新潟県	チーム木念人	38	30	愛媛県	神子之森里山保全活動組織	43
13	富山県	NPO 法人大長谷村づくり協議会	39	31	福岡県	鬼ヶ城竹林整備活動組織	43
14	石川県	白山瀬波の会	39	32	熊本県	島木竹林・里山保全の会	43
15	福井県	下久米田里山保全会	39	33	大分県	入蔵里山づくり	44
16	山梨県	西山扇山部分林管理委員会	39	34	宮崎県	西郷区木質バイオマス等研究会	44
17	岐阜県	イワクラ里山倶楽部	40	35	鹿児島県	麦生集落前嶽森林活用グループ	44
18	静岡県	谷津山再生協議会	40				

第1部

活動事例紹介



日本全国の15団体の活動をご紹介します

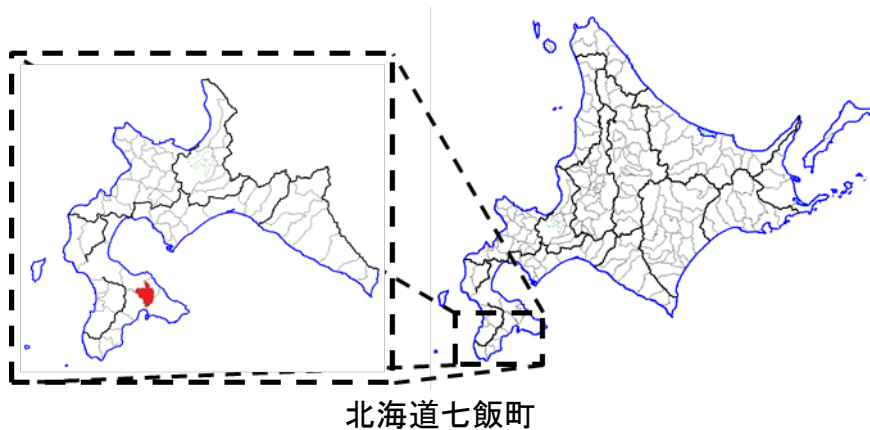
馬を活用した空間利用と生産の融合を目指す森づくり

大沼流山森づくりネットワーク

活動タイプ（平成 28 年度）

- 地域環境保全
- ✓ 里山林保全
 - 侵入竹除去・竹林整備
- ✓ 森林資源利用
 - 森林機能強化
- ✓ 教育・研修活動

活動地域



活動の経緯

大沼流山森づくりネットワークでは、平成 25 年度の設定と同時期に本交付金を活用して、子ども達の自然体験の場づくりと、森林資源の生産・利活用の両立を目指した森づくりに取り組んでいます。

活動地は約 170ha のゴルフ場計画跡地で、うち約 120ha が森林（大沼ふるさとの森：私有地）ですが、活動当初は放置され荒廃した状態でした。ラムサール条約湿地に指定された大沼に隣接することから、周囲の自然にも配慮しながら、既存の広葉樹林を活かした森の再生が行われています。



馬を使った伐採木の搬出

活動タイプ別の取り組み

■地域環境保全（里山林保全）

同じ敷地内に馬の牧場があることから、馬を使った森づくりを行っています。伐採木や風倒木などの搬出の際には、重機を使用せず、馬による搬出を行うことで、林床への影響を最小限に抑えています。馬と一緒に働くことで、働き手が重機で搬出するよりも疲れにくいという利点もあります。また、ミズナラ二次林やハンノキ林などが残る広葉樹林では林間放牧により、化石燃料に依存しない下草刈りを行っています。馬が森の中にいる風景は、森を訪れた人に癒しを提供します。



搬出した材を薪として持続的な形で活用することが、里山林の維持につながります

■森林資源利用

馬を使って搬出した木材は、薪やキノコのほだ木などとして活用しています。その他に新たな林産物の利活用として野生のイタヤカエデの樹液からメープルシロップを作っています。また、将来のためにサトウカエデを植樹しました。薪やメープルシロップは、近隣のレストランに販売するなど、地産地消に向けた取り組みも行っています。

■教育・研修活動

間伐や除伐、薪づくり、柴刈りとたき火料理などの体験など、幼児から大人まで、幅広い年齢層のニーズに応じた森林環境教育プログラムとして行われています。馬を活用したプログラムとしては、ホースロギング(伐採木の搬出)が行われています。馬の牧場のプログラムのホーストレッキング(林内の散策)として、整備された森林が利用されています。

活動状況・成果

■空間利用と資源生産が両立する森の実現

主に広葉樹は薪材として、針葉樹は製材加工して、作業小屋等に活用を図るなど、地域内での森林資源の利活用に向けた取り組みが行われています。また、馬を活用した木材搬出など、森林生態系への負荷が少ない形でかつての明るい里山林の再生が進められています。

特徴的な取り組み

■馬を活用した森づくり

敷地内に自然学校があったり、牧場がある地の利を活かして、馬を活用した「里山林の再生」と「森林資源・空間の持続的な利活用」が一体的に進められています。

大沼ふるさとの森は、自然学校の元利用者や牧場の利用者の活動・体験フィールドとなっており、馬を活用した森づくりは、取組全体に対する良好なイメージ形成にも貢献しています。

成功を生んだポイント

身近にある資源(里山と馬)を組み合わせることで活用することにより、環境負荷の少ない森林整備と、森林空間・資源の利活用の両立が図られています。



サトウカエデの植樹風景



馬搬による材の搬出は、子ども達の環境学習プログラムにもなっています



チェーンソーの安全講習の実施による技術の向上

問い合わせ先	電話	0138-67-3339
	Facebook	https://www.facebook.com/onforestnet/

自生するクロモジの高付加価値化の取組

NPO 法人白神山地を守る会

活動タイプ（平成 28 年度）

地域環境保全

里山林保全

侵入竹除去・竹林整備

✓ 森林資源利用

森林機能強化

教育・研修活動

活動地域



青森県鱒ヶ沢町



活動の経緯

白神山地を守る会は、白神山地のブナ林の復元・再生やエコツアー、人材育成講座の実施を通じて、白神山地の良好な自然環境の保全と持続可能な利用を目的に、白神山地が世界遺産に登録された平成 5 年に発足しました。同会は平成 11 年に法人化し、植林後に放置されたスギ林の除伐や間伐、ブナ等の広葉樹の植樹等による森の再生のほか、除間伐した材の薪利用の促進や、旬の山菜を活用した食育などの取り組みが行われています。平成 26 年度から本交付金を活用して、森林資源の保全と持続的な利用などに取り組んでいます。森づくりに中核的に関わるメンバーは約 23 名です。



広葉樹の苗床

活動タイプ別の取り組み

■森林資源利用

鱒ヶ沢町内の「遊々の森」等を活動フィールドとし、年間を通じて、ブナを中心とした広葉樹の森づくりが行われています。

広葉樹の植樹のために除間伐作業で発生した材は会の拠点施設である白神自然学校の薪ストーブの材などとして利用しているほか、伐採木を活用した木工品やオオバクロモジを活用した商品開発など、発生材の付加価値を高める取り組みに活用されています。



地域の子どもたちとの協働による森づくり

活動状況・成果

■広葉樹の森の再生

植林後に放置され、荒廃したスギ林など約9haの荒廃森林をかつての広葉樹として再生するための除間伐作業や枝打ち作業等が行われています。

作業には地域の学校や企業が継続して関わっています。活動の対象となる森林面積を拡大することよりも、作業を通じて森林生態系や、森林資源の持続可能な利用に適した管理のあり方を多くの人が学び、体験・共有する機会を増やすことに力を置いた取組が行われています。

■企業との連携を強化する工夫

本交付金の活動ではありませんが、CSR活動等の一環として、白神山地を守る会の森づくりの取組に協力的な企業に対して、会が独自に表彰制度「白神環境保全貢献大賞」を設けて、不定期で表彰を行っています。表彰の様子は新聞社等へのマスコミに情報提供され、地域への周知が図られています。



企業との連携による森づくり
(広葉樹の植樹作業)

特徴的な取り組み

■オオバクロモジの高付加価値化

林内から採取したオオバクロモジの葉や枝は、アロマオイルやお茶などに加工し、商品として販売しています。会独自の取組ですが、白神山地のブランド力を活かした森林資源の高付加価値化に貢献しています。

開発した商品は、会の拠点施設である白神自然学校で販売されているほか、都内等で開催される森林・林業関連のシンポジウムや展示会などでのPRを通じて、知名度の向上を図っています。また、商品化したアロマオイルを使ったメンタル講座が開催されるなど、購買層の拡大の取組も行われています。



関連する法令やチェーンソーのメンテナンスなどを学ぶ講習会も定期的開催しています。

成功を生んだポイント

活動範囲が小規模であっても、地域にある資源を活かして取組のメニューや情報発信のしかたを工夫することで、高い広報効果や多様な主体との継続的な協力体制が得られる好事例といえます。



オオバクロモジを蒸留して生産されたアロマオイル（左）と、オオバクロモジの葉と茎を使ったお茶（右）

問い合わせ先	電話	017-743-8314
	メールアドレス	kumagera@shirakami.gr.jp
	ホームページ	http://preserve.shirakami.gr.jp/

住民参加による森づくりとまちづくりの連動

しらたか森づくりの会

活動タイプ（平成 28 年度）

✓ 地域環境保全

里山林保全

侵入竹除去・竹林整備

森林資源利用

森林機能強化

教育・研修活動

活動地域



山形県白鷹町



活動の経緯

平成 26 年に、白鷹町内の NPO 法人しらたか地域再生ネットワークを事務局として、財産区や分収林組合、市民団体、個人山主などで構成する「しらたか森づくりの会」が発足しました。過密状態にある町内の植林地をかつての里山林として再生し、地域の財産である森林資源の循環利用を目指すとともに、森づくりの取り組みを通じて地域住民の主体的なまちづくりへの参画を働きかけています。平成 26 年度より本交付金を活用した里山林の再生に取り組んでいます。



会の構成員で整備した作業道

活動タイプ別の取り組み

■地域環境保全タイプ（里山林保全）

密集したスギ林において、林内で作業しやすい環境を整備するために、道沿いの混み合ったスギや枯損木の整理伐採などの間伐作業が行われています。間伐の進捗に応じて作業道の整備なども行い、安全で効率よく木材の生産・搬出ができる森への転換が図られています。



選木研修会の開催風景

■教育・研修活動タイプ ※平成 27 年度まで活用

林内での作業経験がほとんどない参加者でも安全に作業ができるよう、初年度からチェーンソー講習会を複数回実施し、伐倒方法や、チェーンソーの手入れや安全な服装装着なども含めたノウハウ等の共有が図られています。その他に、間伐や選木の基礎的な知識の向上を図るための現場講習会（選木研修会）が継続して実施されています。

活動状況・成果

■地域住民の参加と安全対策の徹底

作業に際して安全対策は特に重視されており、日頃から作業前の作業メンバーにより装備や服装、作業現場に関して相互に安全確認が行われているほか、チェーンソー講習会を年に複数回実施するなどにより、安全確保に対するメンバーの意識向上が図られています。

■整備面積は増加傾向

地域環境保全タイプでの森林整備は、平成 26 年度は 2.1ha、27 年度は 21ha、28 年度は 31.1ha と増加しています。活動範囲の拡大とともに、近隣の山主などから、新たに所有する森林の管理依頼が寄せられるなど、今後も活動範囲は拡大することが予想されています。

その一方で、活動の対象となる森林の増加とともに、境界が未確定の森林や、作業道がほとんど整備されていない森林における作業負担の増加も懸念されています。



チェーンソー講習会の実施風景



間伐に関する技術講習会の様子

特徴的な取り組み

■地域一体となった森づくりの機運の醸成

作業メンバーが相互に連絡を取ることで日頃の活動状況が共有されているほか、全体総会（年 1 回）や地区別の責任者会議（2 か月に 1 回）の開催を通じて、構成メンバー・団体間の情報共有が図られています。

また、地域住民や関係団体などとの交流を通じて、身近な森林に対する地域住民の興味や関心を喚起するなど、再生可能な地域資源としての森林の価値を共有する取組が行われています。

成功を生んだポイント

これまでには林業従事者などに限定されていた森づくりの取組を、住民参加型のまちづくりの取組と連動させることで、まちを構成する重要な地域資源（社会資本）の一つとして森をとらえる住民が増えた点があげられます。



間伐材は作業場所最寄りのほか、町内に設置された集積場所（木の駅）に持ち込めば、バイオマス発電所等に搬出・販売され、持込量に応じて地域通貨（もり券）が支払われます

問い合わせ先	電話	080-4515-1956
	メールアドレス	saiseinet@email.plala.or.jp

薪ストーブの普及と一体で進める里山整備

白河高原薪の会

活動タイプ（平成 28 年度）

地域環境保全

里山林保全

侵入竹除去・竹林整備

✓ 森林資源利用

森林機能強化

教育・研修活動

活動地域



福島県西郷村



活動の経緯

白河高原薪の会は、東日本大震災を契機に、森林資源の循環利用を通じた里山の再生と、エネルギーの地産地消の推進などを目的に平成 27 年に発足しました。会員は 22 名で西郷村や周辺地域など、全員が福島県内在住です。平成 27 年度より本交付金を活用して、木材資源の地域内の循環利用を通じた里山林の再生の取組が行われています。

放射性物質による影響^{*}で森林に触れ親しむ機会が減るなか、各家庭への薪ストーブへの普及を通じて、地元産の薪の利用を促進し、伐採・萌芽更新による里山林を再生する取組が行われています。

※薪の利用に際しては、国が示す安全性の基準等を踏まえた取組を行っています。



年間約 10 回の作業日には概ね 10 名前後の会員が参加します

活動タイプ別の取り組み

■森林資源利用タイプ

西郷村内の山林は、かつては薪炭の採取やしいたけ栽培などが行われる里山でしたが、担い手の高齢化や、東日本大震災による放射性物質の飛散などもあり、地域の人との関わりが希薄になりつつありました。このため、会の活動は薪材の持続的な利用を通じて森との関わりを取り戻すことを主目的としています。

森林所有者との間で協定を結んで借地した西郷村内の森林を複数のブロックに区分して、ローテーションを組みながら伐採することで、木材資源の利用促進と、里山林の再生を図っています。本交付金を受けて、森にアクセスする作業道の整備のほか、林内での伐倒・玉切・搬出が行われています。

活動状況・成果

活動は会員主体で行い、搬出した樹木は薪材として会員に販売され、その収入は森林所有者との協定費や立木の買取費用に充当されています。

年間約10回の活動は8月と1月を除いて毎月1回のペースで行われ、11月から翌年3月までは主に伐倒、玉切、搬出作業、4月から9月までは蔓切りや下草刈り、10月はチェーンソー等の安全講習が行われています。活動で得られた伐採木は参加者で均等割して持ち帰ることで、林内への放置を防ぎ、かつての明るい里山林の再生を図っています。

活動に際しては、作業メンバーを対象としたチェーンソーの安全講習を実施して、操作やメンテナンスの方法、作業上の注意点などを共有するなどの安全対策の取組が行われています。

特徴的な取り組み

■薪ストーブの普及と一体で進める森づくり

会では、森の管理で発生した材の受入先を確保するために薪ストーブの普及（自費購入）に取り組んでいます。薪ストーブ一台当たりの一冬の薪の消費量（6～7 m³程度）が一人当たりの作業量の目安となっています。そのことで、必要以上の伐採が抑制され、会員数に見合った無理のない作業が継続されています。

■森の恵みを活かした編みカゴづくり

本交付金の活動ではありませんが、身近な森に興味・関心を持つきっかけづくりとして、あけびの蔓を使った編みカゴづくりの教室が定期的で開催されています。現在は、地域の女性を中心に参加があり、自家用のカゴづくりが主に行われています。

成功を生んだポイント

家庭用の薪ストーブの普及と森づくりを一体的に進めることで、森づくりの作業が薪を得るためのインセンティブにつながるなど、安全管理には十分に配慮しながらも楽しく作業をすることが活動の持続につながっています。



作業道の整備風景



作業メンバーを対象としたチェーンソーの安全講習の様子



玉切りした伐採木の搬出風景

問い合わせ先	電話	0248-25-6406
	メールアドレス	stove@alpinejp.com
	ホームページ	http://www.alpinejp.com/blog/shirakawa-firewood-memberblog/

地域特有の天然スギを観光資源とした地域振興

お山の森の木の学校

活動タイプ（平成 28 年度）

- 地域環境保全
- ✓ 里山林保全
- 侵入竹・竹林整備
- ✓ 森林資源利用
- 森林機能強化
- ✓ 教育・研修活動

活動地域



新潟県阿賀町



活動の経緯

お山の森の木の学校は、平成 16 年に設立された団体です。多様性のある森林の管理を続けていくことができるような地域経済システムの実現に寄与することを目指して活動を行っています。

本交付金は、阿賀町からの紹介により、平成 26 年度より活用するようになりました。

活動を始めて以来、中ノ沢溪谷森林公園にある森林科学館を拠点に、木とふれあう木工体験活動を行っていましたが、交付金を活用することで、森林整備にも携われるようになりました。



交付金を利用することで森林整備も実施

活動タイプ別の取り組み

■地域環境保全（里山林保全）

活動場所の森林は、荒れて藪のようになっていました。この森林で、林内の見通しがよくなるように、下草刈りと枝打ち、除伐を実施しています。

人が入って遊べるような森林、人が入って歩き回れるような森林にすることを目指して、整備を行っています。また、人の入り込みによる根の踏み付け等がないように、樹木にも配慮したルートづくりを行っています。

■森林資源利用

除伐や下草刈りで出た細い木を、木工体験の素材として利用しています。さらに、炭焼きも行っています。得られた炭は、土壌改良材として利用することにしています。



整備で出た細い木は木工体験素材として利用

■教育・研修活動

森林体験と木工体験の二本立てで行っています。

まず、森林体験を行い、実際に五感を使って森林を感じてもらってから、木工体験を行います。生きている樹木と木材の関係がわかるようにプログラムを工夫しています。

また、生き物である木を材として利用するためには乾燥が必要であることなど、木の利用のために必要なことを教えています。



森林体験の様子

活動状況・成果

■森林整備を通じた新たな発見

森林を整備して、森の中を見通せる環境にすることにより、天然スギや他の樹木への関心がより深まりました。このことが非常に貴重な天然スギの大木の発見につながりました。

この天然スギの発見は、地元の新聞である新潟日報でも報道され、観光資源となりつつあります。天然スギをこの地ならではの観光資源として活用していくため、天然スギの観察ルートを整備を進めています。

また、森林整備を行った結果、林内が明るくなり、林床に埋没していたシャクナゲが目に見えて成長し、花芽を多くつけるようになりました。森林が明るく癒される空間となっています。



発見された天然杉は、地域の観光資源に

■地元新聞を通じて多様な参加者が集まる

地元の新聞紙である新潟日報に活動案内を送っています。新潟日報に活動案内が掲載されることで、参加者が大きく増えています。参加者は、活動対象地の阿賀町だけではなく、近隣の大都市である新潟市からも集まっています。



活動には多様な参加者が集まります

特徴的な取り組み

■安全性の配慮

安全性に配慮した教育活動を現地で実施するために小学生向けのヘルメットも準備しています。森での活動の際には、全員が必ずヘルメットを着用するようにしています。

成功を生んだポイント

森林整備活動を通じて、天然スギというその地域にしかない特色のある観光資源を発見することができました。天然スギを観光資源として活用することにより、地域の活性化にもつながることが期待されます。

問い合わせ先	電話	0254-99-3226
	メールアドレス	oyamanomori@kinogakkou.jp
	ホームページ	http://www.kinogakkou.jp/

国蝶オオムラサキを守る里山整備

NPO 法人 自然とオオムラサキに親しむ会

活動タイプ（平成 28 年度）

- 地域環境保全
- ✓ 里山林保全
- 侵入竹・竹林整備
- 森林資源利用
- 森林機能強化
- ✓ 教育・研修活動

活動地域



山梨県北杜市



活動の経緯

国蝶オオムラサキの保護を発展させるため、里山環境保全と環境教育の拡大を目指して、平成 8 年より自然保護の取り組みを行う方々によって設立された団体です。

オオムラサキの住める森を未来につなぐために雑木林整備等を行う里山作りの中心団体として活動しています。

平成 25 年度より本交付金を活用することで、オオムラサキが生息しやすい森づくりは劇的に広がりました。



里山に関する理解を広げるために活動を行っています

活動タイプ別の取り組み

■地域環境保全（里山林保全）

オオムラサキの住める森を未来につなげるため、森林整備を行っています。具体的には、雑木林の間伐やササ刈り、伐採後放置された林にエノキやクヌギの苗の植樹を行うなどの活動を続けています。

国蝶オオムラサキにとって、エノキとクヌギの雑木林は生息するために必要な命の源です。

■教育・研修活動

オオムラサキが棲むことのできる里山林についての理解を広げるため、森林内の観察会を実施しています。



オオムラサキが棲める森を作るため植樹を実施しました

活動状況・成果

■交付金によって活動面積が大幅に拡大

交付金活用開始前も 1~2ha 程度を活動範囲として活動を行っていましたが、交付金を活用することにより、活動面積は 30ha と大幅に広がっています。

また、これまでに、活動地のうち 10ha の面積に 2 万本にも及ぶ広葉樹の植樹を行いました。

■参加者の拡大と、地域間交流の進展

もともとのメンバーは、60代から70代前半が中心でしたが、現在では、新たに移り住んできた20代~50代の若い方々も活動に加わっています。里山管理を通じて、新しく移住してきた住民との交流が大きく進展しています。

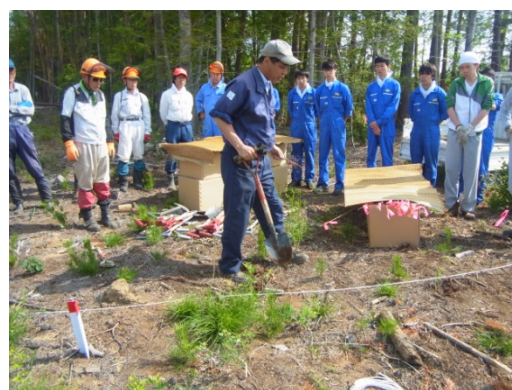
また、活動には、地元の企業も地域貢献活動の一環として参加するほか、地元の小学校、高校、短大からの参加もあります。

■獣害の軽減

ササに覆われた雑木林の下刈を行い、見通しを良くしたことで、隣接地のイノシシ被害が激減しました。



活動を通じ、地域の交流が進展しました



学びながら活動を行うことで活動への参加者が広がっています

特徴的な取り組み

■安全性の配慮

本対策を活用した活動の他に、森林組合、森林総研、県、林家などを講師として、メンバー対象の定期的な安全講習、研修会(技能講習)を実施しています。

■学びながら、オオムラサキの生息地となる里山の再生

オオムラサキの生息地として重要な「里山」を再生しつつ、自然との共生を学ぶ「里山作り~里山再生プロジェクト~」を実施しています。このプロジェクトでは、雑木林の間伐やササ刈りなどの里山を維持する活動に加え、観察会や炭焼き体験などの里山についての学びや体験を通じて、里山についての理解を広げています。

成功を生んだポイント

オオムラサキが生息できる里山を再生するという明確な目的意識のもと、活動を通じて学びながら、里山再生を実施しています。里山整備を地域間交流のきっかけとすることにより、活動への参加者が広がり、活発な活動につながっています。

定期的な講習会を開催することで、森林整備のための技能の向上とともに、安全重視の意識を共有しています。

問い合わせ先	電話	0551-32-6648
	メールアドレス	atobe@mx4.ttcn.ne.jp
	ホームページ	http://oomurasaki.net

将来の夢「夢マップ」の実現に向けた活動

ときのす もり NPO法人 時ノ寿の森クラブ

活動タイプ（平成 28 年度）

- 地域環境保全
- 里山林保全
- 侵入竹・竹林整備
- ✓ 森林資源利用
- 森林機能強化
- ✓ 教育・研修活動

活動地域



静岡県掛川市



活動の経緯

活動拠点となっている場所は、昭和 50 年に廃村になった山村です。この山村出身の方の呼びかけにより、地元森林所有者や森林問題に関心を持つ有志の方が集い、平成 18 年に時ノ寿の森クラブの活動が始まりました。当初は任意団体でしたが、平成 22 年に NPO 法人化し、間伐などを進めていました。平成 25 年度から本交付金を活用して材を搬出し、森の資源を利用できるようにするための取り組みを進めています。

時ノ寿の森クラブは、荒廃した人工林を再生し、森林の多面的機能を十分に発揮できるようにすることで、社会課題解決にも役立てることを目指しています。そのため、「環境共生型森林保全」の活動をソーシャルビジネスに転換し、間伐材の利用などを進めています。

活動タイプ別の取り組み

■森林資源利用

資源の搬出や作業道の作設等に、本交付金を使うことにより、薪や炭等に資源を利用できるようになりました。現在では、建築用材として年間 200 m³以上、木炭は年間 600kg~700kg を生産しています。



間伐材の搬出・利用に交付金を活用



交付金によって搬出した間伐材等により材木等の資源利用が進んでいます

■教育・研修活動

幼児の森林環境教育を広げるための「森のようちえん」活動や、森林整備のための指導者を養成するための安全技術講習会の開催を行っています。このような森林での活動は、都市と山村の住民の交流にもつながっています。

活動状況・成果

■林業事業体との協力による活動の幅の広がり

対象地の中でも急傾斜地の森林は、長く放置され、林内は暗く、下層植生も失われ、落枝落葉もない状態でした。

また、一方で、50年以上放置された薪炭林もありました。広葉樹が大径木となっており、ボランティアで伐採することは困難でした。

そのようなボランティアでは困難な施業は、交付金を用いて林業事業体に委託を行いました。その結果、急傾斜地については、除間伐作業により劇的に森林の状態が改善され、落石や崩土も減少しました。薪炭林の大径木も、安全に伐採され、薪炭林の再生の取り組みを進めることができました。

特徴的な取り組み

■将来的な夢を描いた「夢マップ」の作成

組織内でワークショップを開き、将来どのような森を作っていきたいかを話し合いました。ワークショップの結果は、「時ノ寿の森 夢マップ」としてまとめました。現在は2020年までに実現したい目標を描いています。

■ソーシャルビジネスの推進

森林の恵みを多角的に商品化して、里山の課題を解決すると同時に資源としても利用するソーシャルビジネスを展開しています。これにより、永続的に運営ができるような取り組みを進めることを目指しています。

成功を生んだポイント

活動を行うにあたり、明確な目標を設定しています。例えば、「時ノ寿の森 夢マップ」を作成することで、どのような森づくりを目指すのかを明確にしました。また、財政的に安定した永続的な運営を目指し、里山整備活動のビジネス化を開始しました。



子どもの山村体験活動を推進



森の状態を調査し、今後の活動につなげていきます



森づくりの目標を描いた夢マップ

問い合わせ先	住所	〒436-0341 静岡県掛川市倉真 7021
	メールアドレス	info@tokinosunomori.com
	ホームページ	tokinosunomori.com

県有林に侵入した竹林を整備して、景観を取り戻す

NPO 法人 森づくり奈良クラブ

活動タイプ（平成 28 年度）

地域環境保全

里山林保全

✓ 侵入竹・竹林整備

森林資源利用

森林機能強化

教育・研修活動

活動地域



奈良県奈良市



活動の経緯

ボランティアとして森林・みどりを守り育てる活動を通して、森林と親しみ、森林に対する理解を深めるとともに、人とひと、人と自然との豊かな関係をつくり、躍動感のある地域の未来、森の未来を創り出すことを目的として、平成 9 年から、県立矢田山自然公園の「矢田山遊びの森」で活動を行っています。本交付金は平成 26 年度より活用しています。

奈良市民だけでなく、県内の他市町村からも参加者がいます。最高齢 89 歳を筆頭に、60 代～70 代が中心ですが、20 代の会員もいて、年齢層は幅広くなっています。



竹林の伐採作業

活動タイプ別の取り組み

■地域環境保全（侵入竹・竹林整備）

県有林において、竹の伐採により、景観保全、眺望確保を行うとともに、竹で覆われた場所に多様な環境を取り戻す活動を行っています。

スギ・ヒノキ林の健全な育成が行えるよう、侵入竹除去を行った林分では、間伐等を行い、スギ・ヒノキ人工林を育成するとともに、一部では県と協議しつつ広葉樹の森などに変えていくことも目指しています。



伐採した竹を束ねています

活動状況・成果

■定期的な活動で竹林の大部分を整備完了

官民境界の民有地から侵入した竹林を、交付金を使って整備しています。活動は原則として月に2回、1回につき7~8名程度の参加で実施しています。平成27年度は、述べ132名が竹林整備活動に参加しました。

対象地のかなりの部分について、竹の刈り取りは終了しています。ただし、活動場所は急傾斜地も多く、作業に危険をとまなうような場所では、まだ刈り取りを行っていないところも残っています。また、伐採箇所でも新たな竹が生えてきているので、繰り返し伐採をしていく必要があります。

■侵入竹除去により林内環境や景観が改善

侵入した竹林によってハイキングコースの眺望も阻害されていましたが、交付金を活用した森林整備によって景観・眺望の改善が進みました。来訪者からも、喜びの声を聞いています。

また、それまで日が当たらなかったところに日光がさすことで、下層植生が豊か・元気になってきています。

特徴的な取り組み

■伐採した竹を使ったクラフトづくり

本交付金の活動のほかに、クラフト、草木染め、炭焼き、その他森林関係のイベント開催や講師派遣なども行っています。交付金を受けて伐採した竹の一部は、そのようなイベントで使うクラフト素材として活用しています。伐採した竹をさまざまなパーツに切ったものを使って、イベントで子どもたちがクラフトを作っています。

■安全を確保するためのヒヤリハット等の情報共有

安全性を確保するため、作業前に注意事項の確認、作業後にはヒヤリハットの情報共有をしています。

また、会員を対象として、外部講師を呼んでの安全講習を年に1~2回行い、作業を行う上での安全性を確保する取り組みを行っています。

成功を生んだポイント

活動対象地が県有林であることもあり、県とも密に情報交流を行っています。

また、安全性を確保するために作業前後に情報共有を行っています。



急傾斜地での活動
安全管理にも気を配っています



整備によって改善された景観



竹を使ったクラフト素材

問い合わせ先	電話	090-6240-2009
	ホームページ	http://gvnc.eco.coocan.jp/

森林調査を行いながら、かつての里山再生を目指す

高田里山を守る会

活動タイプ（平成 28 年度）

地域環境保全

- ✓ | 里山林保全
- ✓ | 侵入竹・竹林整備
- ✓ | 森林資源利用
- ✓ | 森林機能強化
- ✓ | 教育・研修活動

活動地域



島根県津和野町



活動の経緯

当該地区では、森林の管理が行き届かなくなり、イノシシやサルの出没が深刻化していました。また、スギ・ヒノキ林などは放置され、竹が繁茂する状態でした。

そこで、地区の自治会（34 軒）が主体となって、本交付金を活用するために活動組織を立ち上げ、平成 26 年度より本交付金を活用して森林の管理をはじめました。

自治会が主体となって活動することで、地域のつながりを強めると共に、世代をまたいで活動者を募ることにより、継続的な活動を目指しています。



間伐材を搬出し燃料として利用

活動タイプ別の取り組み

■地域環境保全（里山林保全／侵入竹・竹林整備）

森林の整備活動や、竹林の伐採を行っています。かつての里山林を再生し、森林を適切に管理することにより、鳥獣被害を軽減することなどを目指しています。

■森林資源利用

スギ・ヒノキ林の間伐に加え、作業道の整備を行い、間伐材の搬出を行っています。

平成 26 年には 80 トン、27 年には 300 トンの搬出を実現しました。搬出木は主に燃料用として利用されます。



様々な世代が参加しています

活動状況・成果

■ 獣害の軽減

活動を通じて、竹林の過密化が改善されました。これにより、景観が改善するとともに、獣害も軽減されています。特に二ホンザルは出没しなくなってきました。

■ 地域のつながりと高齢者の生きがい

活動を通じて、地域においても山林に対する関心が高まっています。活動の成果を見て、「自分の山も手入れしてほしい」と声もかかるようになってきました。

本交付金による活動は、地域の高齢者にとっても、生きがいとなっています。



混み具合などを調査したうえで、森林整備を実施しています

特徴的な取り組み

■ 活動の効果に関する調査の実施

森林の混み具合の調査を行っています。現在のところ、樹間距離を4~5mくらいにするのを目安に、間伐作業を行っています。

また、森林から得られる資源の利用量・出荷量の調査を行い、年間の資源搬出量を把握しています。

■ 安全確保のための注意事項の共有

活動開始前に朝礼を行い、当日の作業内容や注意事項の確認を行い、参加者全員で共有しています。

■ 講習会や活動を通じた技術の向上

メンバーの大半は、本交付金を活用する前は森林整備に関わるような経験はありませんでした。しかし、チェーンソー講習会を受講し、さらに活動を通じて技能をみがくようにしています。

なお、森林作業についての安全講習等については、津和野町から斡旋されています。



安全確保のため、朝礼で注意事項を共有しています



チェーンソー講習などを受講し技術力を高めています

成功を生んだポイント

間伐材を搬出、販売することで、活動資金の一部の確保につながっています。

整備した森林の混み具合や、年間の木材資源搬出量など、森林に関する調査を行い、森づくりに活用しています。

問い合わせ先	電話	090-9734-3309
--------	----	---------------

落葉広葉樹 3896 本の森で里山アウトドア活動

ふくの森の会

活動タイプ（平成 28 年度）

- 地域環境保全
- ✓ 里山林保全
- 侵入竹・竹林整備
- ✓ 森林資源利用
- ✓ 森林機能強化
- ✓ 教育・研修活動

活動地域



山口県下関市



活動の経緯

「市民と森を元気に!」を合言葉に、自然に親しみ、自然を大切に、自然を再生していくことを目的として、市役所OB、木材関係者、登山愛好家などが中心となって、平成 12 年 1 月に設立された団体です。

活動対象地である「ふくの森」は、もともとは管理されずに放置されていた場所でした。団体設立後、平成 27 年 3 月までに、3,896 本を植樹し、豊かな森づくりを実現しています。

本交付金は平成 26 年度から活用しており、対象地を下関 No.1 の落葉広葉樹の森に成長させるよう活動を進めています。



森林内での勉強会を通じて対象地の理解を深めています

活動タイプ別の取り組み

■地域環境保全（里山林保全）

クヌギ、コナラ、ナツツバキ、ヤマザクラ等を植栽するとともに、下刈、間伐、萌芽保育などの森林整備活動を行っています。

また、活動地に出没するシカによる植栽木や萌芽の食害が生じているため、獣害防止ネットを交付金で購入して、萌芽更新させている切株の周りを囲いました。その結果、シカの食害被害は軽減しています。

■森林資源利用

対象の森林から得られる伐採木を活用して、炭焼きやシタケの菌打ちを実施しています。



獣害防止ネットで切り株の萌芽を守っています

■教育・研修活動

子供たちを対象とした昆虫観察会や、森林の樹木山野草の勉強会などの環境教育活動を実施しています。広く一般の方にとって、森林の魅力を実感する機会となっています。

活動状況・成果

■対象森林内の新たな魅力の発見

本交付金を用いた活動を通じて、ランなどの希少種を確認しました。また、竹林の伐採を通じて、山の上部に大きなヤマザクラがあることがわかりました。これらの発見が地域の魅力づくりに寄与することを期待しています。

■森林ボランティアが健康につながる

植林などの森林ボランティア活動で汗をかくことで健康増進につなげる「里山アウトドア活動」を推進しています。これにより、地域の自然の再生とともに、参加者の健康の向上にも役立てることを目指しています。

また、参加者間の交流活動も積極的に行っています。

特徴的な取り組み

■森林整備を適切に行うための調査の実施

「樹高調査」「胸高直径調査」「密度調査」などを実施しています。こうした調査に基づき、活動当初に植栽したクヌギやコナラなどが、一定程度の太さになった段階で、周りの樹木の状況も見ながら、間伐を行っています。

間伐によって伐採した樹木は、シイタケのホダとして活用、枝は炭焼きに利用しています。

■地域産のドングリを活用した補植用苗の育成

対象地でドングリを拾い、別途確保している土地(ふくの里)にて補植用の苗木作りを行っています。萌芽更新も含め、地域の遺伝子にも配慮して、自然を守る活動を行っています。

成功を生んだポイント

教育・研修活動で、市民が参加する昆虫観察会・森の勉強会・バードウォッチングなどで参加者や会員との交流を積極的に行い、和と輪づくりを実現。里山アウトドア活動を通じて自然と参加者双方の健康も実現できるような取り組みを進めています。



伐採木にシイタケの菌打ちを行います



森林保全と市民の健康の両立を目指す取り組みを行っています



補植用に対象地のドングリを拾い、苗木作りも進めています

問い合わせ先	住所	下関市長府豊浦町 7-16
	電話	083-245-9242

登山道の安全性確保から広がる山での取り組み

東かがわ市北山森林ボランティア会

活動タイプ（平成 28 年度）

- 地域環境保全
- ✓ 里山林保全
- ✓ 侵入竹・竹林整備
- 森林資源利用
- 森林機能強化
- ✓ 教育・研修活動

活動地域



香川県東かがわ市



活動の経緯

20 年以上前から地元有志で登山道の維持管理を行っていましたが、メンバーの一人が平成 16 年に県のフォレスター養成スクールに参加したことを契機に、現在の団体を設立しました。

平成 26 年度から本交付金を活用して、四季折々の山の美しさや、楽しさが実感できるような森づくりの活動を行っています。

現在は、地元の人を中心に、約 30 名の会員がいます。平均年齢は 68 歳です。



登山道の整備を行います

活動タイプ別の取り組み

■地域環境保全（里山林保全）

春に山桜や、秋の紅葉を楽しむことができるように、下刈りやその他樹木の抜き伐りを実施しています。

■地域環境保全（侵入竹・竹林整備）

早春にタケノコ掘りなどが楽しめるように、竹の間伐などを行うことで、明るい竹林づくりを実現しています。



間伐の実施風景

■教育・研修活動

近隣園児の山での体験活動の企画運営などを行っています。幼稚園の先生には、年に 1 度、森林の管理活動にも参加してもらって、活動そのものの意義も実感してもらっています。

活動状況・成果

■登山道の整備

交付金を活用して、登山道の下刈りを年 4 回実施しています。そのため、対象森林内の登山道を安全な状態で維持することができており、利用者は安心して登山道を通行できます。

■シイタケやナメコの生産

雑木林で伐採したクヌギ・コナラなどの広葉樹をほだ木として、シイタケやナメコを育てています。生産したキノコの一部は、近隣の観光宿泊施設で販売を行っています。



整備した登山道

特徴的な取り組み

■地元の幼稚園との連携

対象森林の登山道の整備により、地元の幼稚園の恒例行事として、登山やタケノコ掘りを開催できるようになりました。教育・研修活動タイプの交付金で、その企画・運営も行っています。その際には、伐採した広葉樹で育てたシイタケやナメコの収穫体験も実施しています。

山での体験活動を実施している幼稚園（3園）の先生には、年に 1 度森林の管理活動にも参加してもらっています。それにより、森林整備活動そのものの意義も実感してもらう機会となっています。

■土地所有者との連携

活動対象地の多くの部分を国有林が占めていたことから、四国森林管理局香川森林管理事務所とも相談しながら、活動を進めてきました。また、登山道の下側には私有地が多いですが、私有地の地権者も活動に参加して、取り組みを進めています。



生産したキノコは非常に人気で、完売となることもあります



連携幼稚園が参加するタケノコ掘りの様子

成功を生んだポイント

登山道の安全性を確保することで、間伐等の森林整備活動や幼稚園児も含む森林内での活動を安全にできるようになり、活動の幅が広がっています。

また、地域の地権者や幼稚園の先生なども活動に参加してもらうことで、活動の意義を広く共有することができています。

問い合わせ先	電話	090-7625-9329
	メールアドレス	kk-shirotori@md.pikara.ne.jp

共生をテーマに森林保全、竹林管理

NPO 法人 森林をつくろう

活動タイプ（平成 28 年度）

- 地域環境保全
- 里山林保全
- ✓ 侵入竹・竹林整備
- 森林資源利用
- 森林機能強化
- 教育・研修活動

活動地域



佐賀県神埼市



活動の経緯

当法人は、平成 17 年 2 月より、日本の森林を元気にする方法の一つとして木材利用があることを広く知ってもらうことを目指して、森林保全、国内産木材の利用促進など、様々な活動を展開しています。

参加者は、地区内の住民、地区出身の関係者で、主に 60～70 代のメンバーが中心となって活動を行っています。

平成 26 年度から本交付金を活用して、竹林整備、除伐、作業道の整備などを実施しています。



侵入竹除去・竹林整備を行っています

活動タイプ別の取り組み

■地域環境保全（侵入竹・竹林整備）

森林があることによって、活動を通じた人と人の交流が生まれ、恵みを得て、収益を生み出したりできることを、地域の人たちが再認識するきっかけ作りを目指して、取組を行っています。

活動内容として、森林内の竹の間伐などを行っています。竹の間引くことによって明るくなった竹林では、タケノコも取れるようになり、地域の皆様に喜ばれています。

また、作業道を開設することで、安全な作業ができるようになりました。



作業道を整備することで安全な作業ができるようになりました

活動状況・成果

■竹林内が明るくなり、整備の効果が目に見えるようになる

竹林の整備を行うことで、竹林が隣接地に侵入することを防ぐことができるようになりました。

また、竹を間引くことで明るくなった竹林では、下層植生も発達するとともに、タケノコも取れるようになりました。

地域の人々に活動フィールドを開放して、タケノコの収穫などを楽しんでもらっています。

活動の成果は周辺にも知られるようになり、別の地権者からも、自分の土地の竹林管理についての相談も寄せられるようになっていきます。



明るくなった竹林では、下層植生が発達し、タケノコも取れるようになりました

特徴的な取り組み

■地域との協力の推進

活動場所は民有地ですが、活動地の所有者と、フィールドを地域の人々が広く利用できるように開放する取り組みを行っています。

また、整備後に無断で山に入ってタケノコやシイタケなどを採取する不審者と思われる人がいた場合は、地権者に知らせるようにしています。



明るくなった竹林では、さまざまな下層植生が芽生えています
(写真はシロダモ)

■森林管理が必要であることを知ってもらうための活動

山村にとって森林管理は欠かすことができないものであるという考えのもと、地域全体で、その必要性を再認識するきっかけとなるように活動を行っています。

具体例として、本対策とは別に、隣県である福岡県の小学生を招いて、植樹活動なども行っています。このような森に触れあう環境教育活動を通じて、子どもたちに森林保全の意義を伝えています。



竹林の整備活動が広く知られるようになり、別の地権者からも相談が寄せられるようになっていきます

成功を生んだポイント

地域の人々の活動の場として活用したいという理念をもち、地権者と協議を行い、地域の人々が広く利用できるようにするための取り組みを行うことで、竹林管理の成果を地域で共有しています。これにより、活動の重要性についての理解が地域に広がっています。

問い合わせ先	ホームページ	http://www.mori-tukurou.com
--------	--------	---

玉之浦椿の森保全会

活動タイプ（平成 28 年度）

地域環境保全

✓ 里山林保全

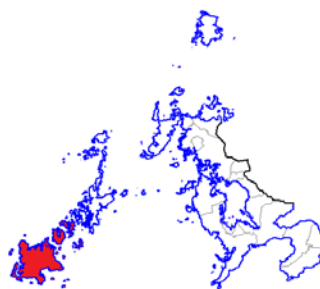
侵入竹・竹林整備

森林資源利用

森林機能強化

教育・研修活動

活動地域



長崎県五島市



活動の経緯

玉之浦地区の広葉樹林は、かつては、薪炭林として活用されてきましたが、近年はこうした利用がなくなり、荒廃していました。

しかし、この地区の樹林内には、五島市の特産物である椿が高密度で分布していたため、高い利用価値があると考えられました。

そこで五島市と玉之浦郷が平成 24 年に「玉之浦椿の森保全会」を設立し、椿が高い密度で生育している森林の整備を行うこととしました。椿を活用できるようにすることで、地域活性化に寄与することを目指しています。

本交付金は五島市から情報提供を受け、平成 25 年度より利用しています。



事前に活動内容の打ち合わせを行うことで、目指す森の姿を共有しています

活動タイプ別の取り組み

■ 地域環境保全（里山林保全）

交付金を利用することで、作業道の整備、雑木の伐採、椿の間伐、下刈りなどの作業を行っています。

椿の周辺の雑木を伐採し、椿の成長を助けることで、椿油の原料生産を促進し、経済的な収益を産み出していくことを目指しています。

また、椿がまとまって生育する場所となれば、開花期には、景観的にも魅力をもつことが期待されます。

このように、椿を育成することで、原材料生産と観光資源の両面から、地域活性化につながることを期待されます。



雑木の伐採及び集積作業。

活動状況・成果

■地域の重要資源である椿林の再生

地域の主体的な活動により、雑木等の伐採や整備を進めることで、椿樹の生育に良好な環境整備につながっています。もともとは雑木が生い茂る森でしたが、椿主体の森に変わってきました。森の中が明るくなることで、椿の萌芽も確認されるようになってきました。

森林整備が進むとともに、椿やその実に対する関心が高まっています。成果が見えてくることで、今後参加者が拡大していくことが期待されます。

ただし、椿の実の安定的収穫には、一定の期間が必要です。椿油を生産していくためには、継続的な管理が不可欠です。



除伐で明るくなったことで、椿の萌芽が確認されはじめています

特徴的な取り組み

■県や市、森林組合との協力による活動の進展

地域の住民グループが椿の森を整備し、市が事務処理・指導的役割を担っています。

また、作業を行うに当たり、本対策とは別に、300メートルの作業道を市の職員と協力して整備しました。

さらに県の五島振興局林務課とは、現地技術指導の他、作業道測量や作設指導、椿の実の数をカウントするモニタリング調査などで協力関係があります。

加えて、森林整備活動を進めるに当たり、五島森林組合などからは、安全講習会や、チェンソー点検・使用方法の指導をうけることで、安全な作業を進めることができるように、技術力を高めています。



サンプル木を設けて、椿の実の付き方の調査をしています（調査は交付金外で、県が実施）

成功を生んだポイント

県や市、森林組合など、多様な主体との連携を行うことで、着実に地域資源である椿林が整備されつつあります。作業道の作設や事務作業、モニタリングなど、地域住民だけでは難しい作業を他団体との協力によって進めています。

地域の資源である椿を活かした森づくりを行うことにより、椿油の生産と、景観改善による観光資源化により、森林整備を地域活性化につなげるように活動を行っています。



安全講習会を通じて、安全に対する理解を深め、技術力を高めています

問い合わせ先

—

多様な主体との連携による竹の資源化を通じた地域活性化

いきいき安心おおいた

活動タイプ（平成 28 年度）

- 地域環境保全
- ✓ 里山林保全
- ✓ 侵入竹・竹林整備
- 森林資源利用
- 森林機能強化
- 教育・研修活動

活動地域



大分県大分市



活動の経緯

いきいき安心おおいたは、平成 23 年 2 月に設立された団体で、地域の高齢者などの支援を必要とする人たちが、地域の中でいきいきと暮らせることを目指して活動を行っています。

平成 25 年度より本交付金を利用して、高齢者が参加する形で地域の魅力を向上させる一環として、放置竹林の整備などに取り組んでいます。

地域資源である竹を活かし、竹の価値を高め、収益を地域に還元できるようにすることをめざしています。このような取り組みにより、働く場所をつくり、高齢者の元気や若者の定住のきっかけになることが期待されます。



竹の資源化をすすめることで、地域の活性化につなげています

活動タイプ別の取り組み

■ 地域環境保全（里山林保全/侵入竹除去・竹林整備）

中学校の通学路でもある道路沿いの竹林が整備も行われず、藪化していたため、竹林の環境改善のための取り組みを行っています。

藪化した竹林は見通しも悪いことから、防犯上問題があり、不法投棄もされやすいという問題がありました。

竹林の整備により、地域の問題を改善するだけでなく、伐採した竹を資源として活用していくことで、循環型社会の構築や地球温暖化防止に寄与しています。

また、シイタケのほだ木作りも行っています。



里山を整備し、シイタケのほだ木づくりも行っています

活動状況・成果

■竹林整備による資源の利用

整備により明るくなった竹林にはタケノコが生えるようになり、タケノコ狩りもできるようになりました。

また、伐採した竹を粉砕機（大分市から貸与）を使って粉砕し、竹チップや竹パウダーにした後、土壌改良材や肥料として利用しています。

さらに、伐採した竹の一部は竹炭としています。加えて、竹パウダーを利用した非常用固形燃料も作り、伐採した竹の資源化の取り組みを進めています。



粉砕機を使って竹林を整備しています

特徴的な取り組み

■竹林整備の必要性を周知するための広報活動

本対策の活動ではありませんが、竹林管理の必要性について多くの市民・県民に知ってもらうため、大分県や大分市の環境展でパネル出展や事例発表などを行っています。



竹を使った資源利用の取組について、地元
の環境展にて普及、広報を行っています

■竹林整備から得られた資源の実用化に向けた取り組み

本対策で伐採した竹等の資源化を進めるため、大学などと協力しています。

大分大学工学部応用化学科による竹を素材にした研究（竹燃料電池）に協力し、竹の資源利用を促進するために積極的に活動を進めています。

また、地元企業と協力して、竹チップと籾殻で非常用固形燃料も作りました。このような固形燃料は、熊本地震の際に南阿蘇に災害救援物資として寄贈もされています。



活動には市の職員なども参加しています

成功を生んだポイント

竹の資源化を通じて、地域の活性化につなげるための努力をしています。竹の資源化にあたっては、市からの資機材の貸与や、資源利用のための大学や地元企業との協力など、多様な主体との連携・協力を行うことにより、着実に取り組みを前進させています。

問い合わせ先	メールアドレス	junnori@oct-net.ne.jp
	ホームページ	http://ikiiki-oita.lar.jp/

大径木材を育てて沖縄県の文化を伝える

首里城古事の森育成協議会

活動タイプ (平成 28 年度)

- 地域環境保全
- ✓ 里山林保全
- 侵入竹除去・竹林整備
- 森林資源利用
- 森林機能強化
- ✓ 教育・研修活動

活動地域



沖縄県国頭村・東村



活動の経緯

「首里城古事の森育成協議会」は、沖縄県、国頭村、東村、学識者、森林組合、地元学校など 18 団体が構成されており、平成 20 年に設立されました。

大戦および復興のために、戦後の沖縄の森林資源は枯渇していました。そのため、沖縄における歴史的建造物である首里城や識名園の復元には、台湾や他府県産のヒノキを使用せざるを得ませんでした。

将来、首里城をはじめ木造建築物を修復する際には、出来る限り木材を県内から供給できるよう、長期的な視野に立って大径木の木材資源の育成を図っています。併せて沖縄に伝わる木の文化、森林・林業について理解を深める森林環境教育を目的として国有林と協定を締結して活動を行っています。

平成 26 年度から本交付金を活用して、長伐期で大径木の森づくりを地域住民参加で展開しています。



植栽が完了した活動場所の様子

活動タイプ別の取り組み

■地域環境保全 (里山林保全)

将来、首里城をはじめ木造建築物を修復する際に利用可能な木材を育てるために、大径木の木材資源の育成を目指して造林を行っています。これまで、国頭村および東村の国有林にイヌマキ、オキナワウラジロガシ、イジュ、フクギの苗木を植栽し、植栽箇所の下刈、施肥、受光伐などの保育管理を行っています。



下刈作業を行います

■教育・研修活動

地元の小学校と連携して、対象地の国有林において、苗木の植栽や保育活動などを行っています。

活動状況・成果

■イヌマキなどの苗木を植栽

対象地（国頭村安波国有林に 2.49 ヘクタール、東村平良国有林に 0.68 ヘクタール）への苗木植栽は完了しました。今後は、植栽木周辺の下刈、枯損木の補植などの維持管理を行っていきます。また、今後の取り組みとして、苗木植栽区画周辺の防風林の育成などを計画しています。

■小学校を対象とした森林環境教育

地元の小学校（国頭村 2 校、東村 1 校）と連携して、植栽や保育活動などを行う事業を継続的に展開しています。この事業は、地元の新聞などでも取り上げられました。また、児童が森林について学ぶ森林教室なども実施しています。

特徴的な取り組み

■森林管理署と連携

森林管理署と連携して事業を行っており、森林管理署から現場での安全指導を受けています。また、モニタリングや、関係書類作成についての助言や支援も受けています。

■植栽木の一部は成長量のモニタリングを実施

前述のモニタリングでは、成長量調査、照度調査、被害木調査などを行っています。成長量調査については、植栽木のなかからモニタリングする樹木を選定し、根元径、樹高を記録しています。

また、植栽樹種のひとつであるイヌマキには、病害虫であるキオビエダシャクが付くので、付いていないかどうかを確認しています。

成功を生んだポイント

沖縄県における林業では、長伐期施業に係る知見が非常に少ないという課題があります。現在は、その課題を解決するために、モニタリングにより知見の蓄積に努めながら、試行錯誤をしつつ、活動を進めています。



地元の小学校の児童も参加して、対象地の植栽や維持管理活動を行っています



地元の小学校の児童が参加して、森林について学ぶ森林教室を実施しています

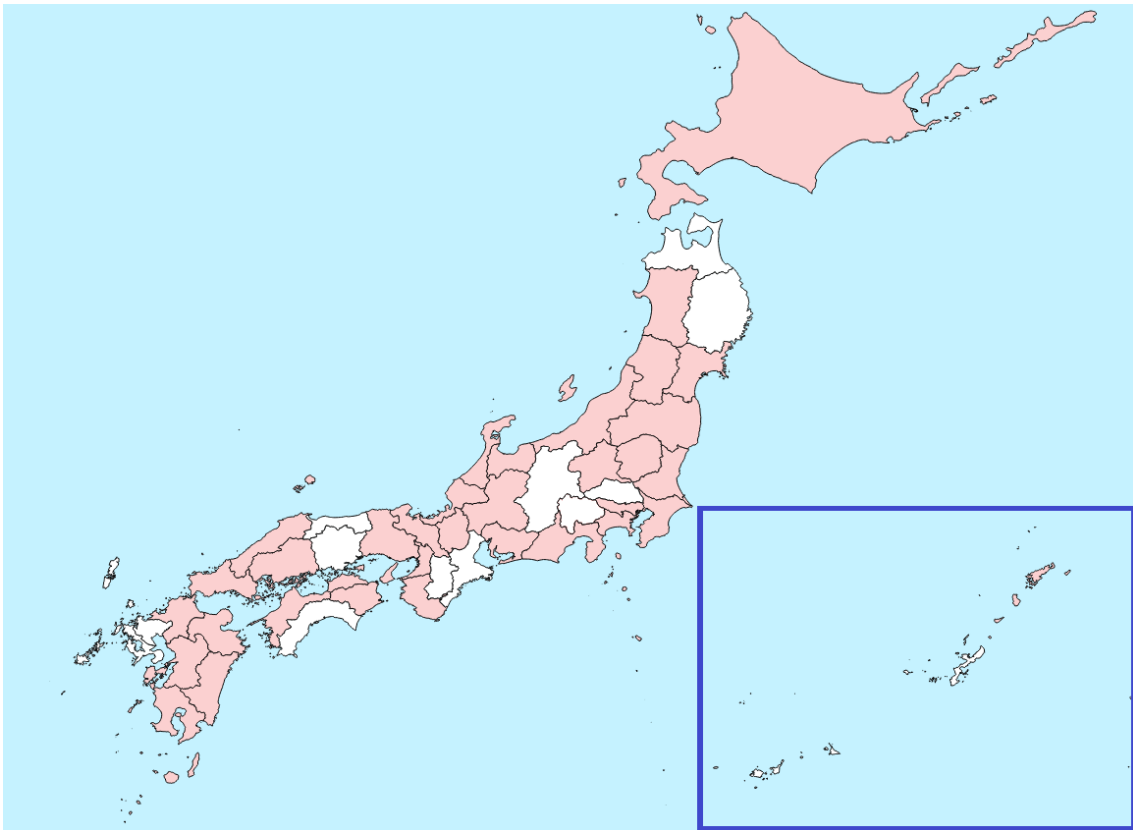


対象地の樹木の成長量をモニタリングしています

問い合わせ先	—
--------	---

第2部

全国「自慢できること」紹介



全国の活動組織の皆様の森林・山村多面的機能発揮対策交付金を使って実現できた「自慢できること」(35団体)をご紹介します。

北海道

団体名：札幌森友会

代表者：小林 文男

住 所：札幌市南区藤野4条2丁目5番32号

森林機能を高めることを目指して、交付金を活用して地域の人々と活動を行っています。さっぽろ市民の水源地の森の下刈と手入れ作業、野幌森林公園の台風被害地復興の森除伐作業、支笏・洞爺国立公園観光道路周辺人工林の除伐と風景整備作業などを通じて、森林の公益性の向上につながる活動に取り組んでいます



宮城県

団体名：若草山みどりの会

代表者：首藤 誠

住 所：宮城県登米市東和町米川字中嶋177

当会がこの交付金を活用して活動を行っている場所は、大正時代に小学校の教員が失明し6ヶ月後に坂を転げ落ち、奇跡的に光を得た開明坂がある所で、この地には数百種の山野草や樹木が自生していることから、小学生の観察学習会や体験学習を行っています。



秋田県

団体名：白神里山クラブ

代表者：嶋津 宣美

住 所：山本郡八峰町峰浜沼田字家ノ下156番地2

白神山地の南山麓に位置する町有地の里山「石黒」で雑木の森を整備しています。その結果、杉林からブナの植栽地、ナラの林、ブナの二次林、ブナの天然林などが観察できるようになりました。山菜取りや炭焼き、イワナ釣りなど、山の資源を活用して山を元気にしています。



山形県

団体名：やまがた整森の会

代表者：高橋 陽介

山形市民のシンボルとして親しまれている千歳山周辺は、松枯れの被害と森林整備の不足により荒廃が目立っていました。

この交付金を活用し、松枯れ被害木を処理することで、登山や散策を楽しむ方々も増え、作業へ対するねぎらいの声をかけて頂く機会も増えました。



福島県

団体名：やまもり会@霊山

代表者：玉手 孝行

URL：<https://www.facebook.com/やまもり会霊山-1679529392371170/>

山を守り、山で盛り上がる「やまもりで晩酌を！」をコンセプトに、ほしい未来をDIYする行動を、若者・女子・爺さん・子どもまで異世代を巻き込んで楽しく実践中です！森林資源で未来を伐り拓くために、ひとりひとりがやりたいことを地域でカタチにできるコミュニティを形成中！



茨城県

団体名：ふれあい筑波

代表者：小野 幸一

URL：http://sky.geocities.jp/fureai_tsukuba/

活動5年目にして、地域の理解を得られ、今や住民からの森林整備の要望に答えきれないほどの状況となり、活動参加者もさらに意欲的に取り組んでくれることが頼もしいことです。平均年齢は高いですが、活動に参加する人たちは楽しんで作業に従事することで健康寿命の向上に貢献しています。



栃木県

団体名：西宮町自治会

代表者：石原 榮

住 所：栃木県足利市西宮町 2892-7

西宮町には神社や仏閣、2つの学校があります。周辺森林の整備を行った結果、野生鳥獣の出没を減らし、景観を守る事ができました。さらに、小・中学生、高校生の登下校の安全確保や、明るく、安全・安心に暮らせる環境確保にもつながり、住民などから感謝の言葉をいただいています。



群馬県

団体名：ぐんま山森自然楽校

代表者：劔持 雅信

メール：Info.g.yamamori@gmail.com

URL：<http://yamamorigunma.com/>

この交付金を活用出来たことで、次代を担う子ども達に身近な森林やそこに棲む動植物のことを紹介し、楽しく学びふれあうことが出来たほか、森林や木が持つ有用性を改めて認識することが出来ました。



千葉県

団体名：おとずれ山の会

代表者：高橋 順子

住 所：千葉県市原市光風台 4-280

本交付金を活用して、市と協定した森林の一部（篠竹斜面）について、地元水利組合への一部委託により整備を行いました。その結果、行政、水利組合、里山団体の協働によるこの地域の地域環境整備が進み、農地への獣害を防止することにも寄与することができました。



東京都

団体名：特定非営利活動法人フジの森

代表者：清水 久巳

URL： <http://www.fujinomori.net/>

この交付金を活用して、35年間放置され荒廃した森や竹林に手を入れ、美しい里山で散策することが可能になりました。また、村内外の様々な立場の作業者同士で交流が起り、整備されたフィールドを使って、森づくりなどのガイドプログラムを実施できるようになりました。



神奈川県

団体名：沼間四丁目上の谷戸森林管理協議会

代表者：清田 武久

住 所：神奈川県逗子市沼間四丁目 8-43

対象地では山と山に囲まれた沢に位置する地域のため、台風などの悪天候時に住居に倒木被害が生じるのではないかと不安を長いこと抱えていました。本交付金を活用し、危険木の除去や竹林の整備ができたことで不安が取り除かれるとともに、明るい風通しの良い住居地になりました。



新潟県

団体名：チーム木念人

代表者：小名川 征生

メール： shinrinjuku@gmail.com

URL： <http://shinrinjuku.forest-f.com/>

当会は地元の杉林の間伐を実施していますが、この交付金で購入したロープウインチを取り入れたことにより集材の効率が大幅にアップしました。間伐材を板材にして搬出し、加工品を製作販売する杉材の利活用が加速しました。



富山県

団体名：NPO 法人大長谷村づくり協議会

代表者：村上 光進

住 所：富山県富山市八尾町庵谷 10 番地

当協議会では、自然にかかわる行事をいろいろ企画しています。自然環境の維持に軸足を置いた取り組みを続けることで、関心のある方々に多くかかわっていただき、四季折々の営みで山紫水明な山里がいつまでも続く活動を続け、安全安心が続く山里を守り、代々受け継がれる活動を続けていきたいと思ひます。



石川県

団体名：白山瀬波の会

代表者：西原 秀幸

URL : <http://www.hakusansenami.jp/>

この交付金事業で、古く昔に盛んであった炭焼きを約半世紀ぶりに復活させ、当地区の人々に昔のなつかしさや希望を与えることができました。作業道整備活動を通じて交流も広がり、当活動が広く知られるようになったことで、登山者も増え地域活性化につながっています。



福井県

団体名：下久米田里山保全会

代表者：幸川 賢悟

住 所：福井県坂井市丸岡町下久米田 13-26

地域ぐるみで森林整備に取り組んだところ、農地の猪被害が大幅に減少しました。

以前里山一帯で見られた猪足跡が相当数減り、里山周辺農地でも猪出没形跡はほとんど見られなくなりました。当活動による里山の健全化で農作業も里山近辺の散歩も安心してできると、大変喜ばれています。



山梨県

団体名：西山扇山部分林管理委員会

代表者：鬼島 弘典

住 所：山梨県大月市富浜町鳥沢 1900

当会で活動を行う扇山には自生の山椒の木が沢山生育しています。地域の女性とともに人が入りやすい里山を整備することで、山椒を活かした町の活性化を目指しています。山椒の葉や実を使った料理はとても好評です。



岐阜県

団体名：イワクラ里山倶楽部
代表者：玉置 英敏
URL : <http://satoyama.yamaokakankou.com/>

当倶楽部では、本交付金を活用して環境保全、景観づくりを行うことをミッションとしています。さらに資源の循環活用がサブミッションです。針葉樹は温泉ボイラーに使い、広葉樹林は炭焼きして町内バーベキューハウスで使用するほか、シイタケのほだ木づくりに活用しています。



静岡県

団体名：谷津山再生協議会
代表者：石井 秀和
URL : <https://yatsuyama.jimdo.com/>

教育・研修活動タイプの交付金を活用して、年に数回草刈りをしている草地と放置竹林の林床植生の比較調査や、竹を安全に伐る方法を体験させることで、地域の人や高校生、大学生に放置竹林問題について学ぶ・考える場を提供することができました。



愛知県

団体名：鳳来峡の森を明るくする会
代表者：生田 正二
住 所：愛知県新城市能登瀬字北野 23-4

ここ数十年、周辺の森林が林業的にも里山的にも利用されないために木が大きくなり過ぎ、観光景観、生活環境、さらに希少動植物の生息環境も悪化していた状況を改善しようと、除伐を中心に活動を展開し、その薪利用とともに観光的地域づくりを進めています。



滋賀県

団体名：やす緑のひろば
代表者：熊本 正幸
URL: <http://midorinohiroba.shiga-saku.net/>

琵琶湖に注ぐ野洲川河辺の荒廃していた森の竹を伐採、実生で発生した幼樹を育成、通路を整備し自然豊かな森として次世代に引き継ぐ活動です。市街地も近く、子供達はカブトムシなど自然の生き物とも触れ合え、地域の人々は散策を楽しめる癒しの森として生き返りつつあります。



京都府

団体名：特定非営利活動法人 加茂女
代表者：久保田 奈美江
URL：http://www.npo-kamome.com

放置竹林整備をするうちに、竹の有効活用を模索するようになりました。竹林内にある建造物（橋・トイレ・道具小屋・入口の囲い等）はすべて自分たちで切った竹林内の竹で手作りしています。学生から70歳代までの男女が自由に活動に参加しています。



大阪府

団体名：NPO クワガタ探検隊
代表者：西 義史
メール：kuwatan-24@ezweb.ne.jp

大都市（大阪北部・箕面国定公園）を舞台に、自然原体験（創作クワガタ虫紙芝居など）森林学習活動を通して、日本古来からの自然観（共生・畏敬・感謝）を伝承できる『未来の森の守り人』を育成しています！



兵庫県

団体名：NPO 法人野生生物を調査研究する会
代表者：飯島 昌
URL：http://www.wildlife.or.jp/

本交付金を活用した森林整備を通じて、「里山に入れるようになった」というのが地元の人々の感想です。それとともに、里地の植物（キンラン、ギンランなど）に加え、湿地がよみがえり、モウセンゴケやモリアオガエルなども復活。年一回の環境学習に参加することもたちに励まされて活動を続けています。



和歌山県

団体名：熊野森林学習推進協会
代表者：田中 多喜夫
URL：https://kumano-kaffe.jimdo.com/

里山との繋がりがなくなってきている現在、時代に相応した里山づくりを目標に取り組んでいます。森を育て成長していく楽しさ、風景のよい森で過ごす気分、森の恵みを使う先人の知恵を学ぶテーマとして、林業家の指導のもと、森林整備活動を一般参加で行っています。



島根県

団体名：竹取のかぐや
代表者：樋口 千代子
メール：jukan5@yahoo.co.jp

この対策事業での竹林整備がきっかけとなり、竹堆肥（竹チップに米糠を加え発酵）をグループで作りました。

この竹堆肥を利用して地域の無農薬有機のエゴマ、米のブランド化に取り組んでいます。



広島県

団体名：野登呂山森保全の会
代表者：上本 一男
住所：広島県江田島市能美町鹿川 3113

江田島市内の高峰 6 峰で眺望が開けていないのは野登呂山だけでした。登っても景観が開けていなければ、感動もなく、喜びも半減です。このたび、地域のリタイア組 16 人が、木々を伐採し、能美島から由利島まで眺望がきくようにしました。是非、1 度山歩きに来てください。



山口県

団体名：住みよい長穂をつくる協議会
代表者：重國 和男
住所：山口県周南市大字長穂 1212

地域のほぼ中心部にある里山（亀山）は侵入竹などによる荒廃が進んでいましたが、交付金を活用して地域住民が一体となって整備することで、里山の景観がよみがえりました。また、散策道や休憩場所を整備したことにより地域住民の憩い場所となっています。



徳島県

団体名：西井川林業クラブ
代表者：大柿 兼司
住所：徳島県三好市井川町西井川 625

当地は高齢化や森林所有者が県外に転出等で手入れの行き届かない森林が点在していました。この交付金を活用することで、当該森林を整備することができました。また、森林所有者の許可を得て間伐材を活用することで、所有者の収入増を図っています。



香川県

団体名：羽床里山クラブ

代表者：長尾 敏弘

住 所：香川県綾歌郡綾川町羽床下 834-1

当会は、平成 19 年、綾川町生涯学習講座の「炭焼き講座」からスタートをして、早や 10 周年を迎えます。ここで生産している「竹炭」は災害対策の燃料にも使えることが自慢です。これからも放置竹林を整備し、息の長い活動を続けて「住みよい綾川町」を目指し努力します。



愛媛県

団体名：神子之森里山保全活動組織

代表者：越智 實鶴

住 所：愛媛県今治市玉川町鈍川戊 190

この交付金を活用して、放置竹林の整備を行い、里山の景観を回復することができました。イノシシやサルの被害軽減にも役立つと考えています。伐採後の竹材を利用して、竹製品も作っています。今後は、さらに活動範囲を広げる予定です。



福岡県

団体名：鬼ヶ城竹林整備活動組織

代表者：山本 修治

住 所：福岡県田川郡香春町香春

メール：pal@beige.plala.or.jp

交付金を活用して次世代へ繋げる活動ができたと思っています。手入れの出来た竹林でたけのこ掘り、しいたけ栽培などで収益をあげられる里山暮らしができるようになったことが自慢です。



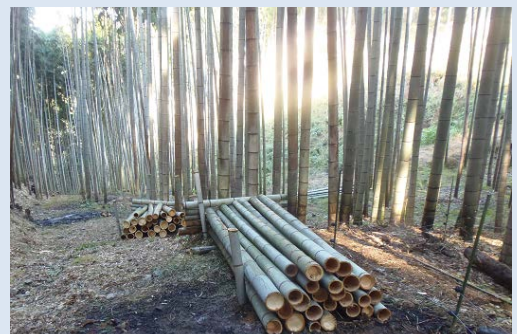
熊本県

団体名：島木竹林・里山保全の会

代表者：甲斐 鴻生

住 所：熊本県上益城郡山都町島木 5469 - 5

里山整備では、集落の先達が共有地に植栽した樹木の搬出・手入れ及び活用が、作業道を整備することにより可能となりました。竹林整備では、伐採竹で作った竹粉を土壌改良材とすることで、良い米が取れるようになりました。これからも過疎地での光明となるべく努力を続けたいです。



大分県

団体名：入蔵里山づくり

代表者：武田 良一

住 所：大分県大分市大字入蔵 924-3

長年の耕作放棄地に竹が生い茂り、民家の近くまで迫り、景観も悪く道路にも倒れ困っていましたが、非農地証明を取得して、当交付金を活用して整備を行いました。

作業の大半は地区の有志のボランティアでしたが、全員大満足でした。地権者の承諾を得て桜、もみじを植林しました。数年後が楽しみです。



宮崎県

団体名：西郷区木質バイオマス等研究会

代表者：藤本 久吉

メール：t.sakai@moritohito.or.jp

スギ・ヒノキ等を伐採する際に発生する残材（タンコロ）を効率よく積み込み、運搬できる方法を試行錯誤した結果、残材を運搬する荷役用包被シート「らくらくモッコ君」を開発しました。このことで一人・一日当たりの日当が1万円前後になるとともに、再生林のコストを低減することも可能となりました。



鹿児島県

団体名：麦生集落前嶽森林活用グループ

代表者：鎌田 一隆

住 所：鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦 2475-18

メール：naoya8940@gmail.com

本交付金を活用することで、防災意識の向上や新たな森林の持つ多面的な機能の発揮に向けてチャレンジするミニモデルづくりの促進につながりました。かつて、むらづくり部門で天皇杯を賜った屋久島集落を代表する里山林の活用に向け、木材の商品化などの取り組みを進めています。

